

【特選】

はやぶさにある宇宙編地上編

島崎 穂花

東京―青森間を時速三〇〇^{キロ}で走る「はやぶさ」が地上の英雄なら、昨年6月に宇宙から無事地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ2」は、さしあたり宇宙の小さな英雄。

【秀逸】

隣国へ齒軋りだけのメッセージ

川那部つぼみ

もはや外交などといえるものではない。隣国からしたい放題、言いたい放題されても、腰を据えた対応ができない。国民の齒軋りが聞こえないか。支持率の凋落は当然。

原発のふるい神話が融けてくる

尾藤 一泉

相手が日本列島初体験のマグニチュード9・0では、文句をつける方が無理かもしれないが、日本が誇る安全神話も所詮は絵に画いたモチに過ぎなかったことを証明。

百年のアカを落として日本橋

吉川 一男

このところ渋谷や六本木に人気を奪われて、しょんぼりしていた日本のヘソ、お江戸日本橋が明治以来のアカを落とし面目一新、東京名所の先輩として平成の再登場。

第一球を投げましたキャンプにて

鈴木 寿子

行く先々へ人間の群れを連れて歩く元ハンカチ王子への過剰反応にマスコミも便乗。一挙手一投足も見のがさず、ただの一球もさながら実戦そのもののような報道。

千年に一度という、まさに国難、東北

関東大震災を、東京で体感したのが、当欄締め切り四日前の三月十一日午後二時

四十六分。それでも、締め切り間際に震災関係の作品が僅かだが届いたので、これは出来るだけフォローすることにした。

こんなことが頻繁にあることではないし、また、あらわては困る。作者にと

っては、記念碑的作句になるはずだ。入選句の内容は、政治、社会、スポーツなど、彩りよく揃ったが、「日本橋」の

句が、現代の人心の傾向を、かなり厳しく批判していることに、あとで気がついた。これもまた風刺川柳である。

二十、三十と句数の多い応募者には、多少とも推敲の不足が見て取れる。発行

間隔から、もう少し腰を落ち着ける時間の利用法を工夫されたらよかるう。

多少とも推敲の不足が見て取れる。発行間隔から、もう少し腰を落ち着ける時間の利用法を工夫されたらよかるう。

勘三郎勲章よりも耳が欲し
 股間から股間で終える受験生
 八億円だつて笹でも食べるか
 庄政へフェイスブックが貢献し
 税制を子ども手当てが狂わせる
 1年で後悔してゐる有権者
 買ひ物の難民が住む過密都市
 それなりに三男坊は手を叩き
 仕分け人馬にも強いるダイエツト
 取り調べ正義が見えてない可視化
 不条理をまた泥舟へ乗せかえる
 塞がらぬ胃袋へまた来る余震
 一晚を車列で明かす雪の宴
 居酒屋のメニューは都知事選
 シロクロはつけずにパンダやつて来る
 知恵の輪が解けない京大の頭痛
 千年に一度あるノンフィクション
 日本史が逢う一頁割く地震
 懲戒に当たらぬという国歌無視

鈴木 寿子
 同
 同
 同
 小野寺帆平
 同
 同
 川辺 大柳
 同
 同
 尾藤 一泉
 同
 同
 山口 早苗
 同
 小林寿寿夢
 同
 同

外相の賽銭箱へ冬の蠅
 都知事選渡世の義理で再出馬
 気紛れなマグマが人を弄ぶ
 カダフィの胸三寸にある油田
 一浪のサクラを散らす知恵袋
 政治家が慌てて着込む作業服
 責任はねじれのせいにする政治
 党略で民が見えない手暗がり
 内紛に暮れて明ければ崩れ落ち
 尖閣に足元揺らぐ菅政府
 三十年抱いたカイロで火傷する
 たちあがれ日本に出る幕がない
 バーゲンに妻の断捨離試される
 政権は2区でタスキが途切れそう
 列島へ迫る津波と無国籍
 喫水線あらわに総理ちゃんこ鍋
 原発も新幹線もギブアップ
 リーリーとシンシン春の真ん中へ
 成田屋の面子を削る高い鼻

島崎 穂花
 同
 佐々木福太郎
 同
 島崎 肇
 同
 川村 雄一
 同
 久保 昭二
 同
 足立 俊夫
 松永 昇児
 吉川 一男
 黒田 伯林
 味野和一柳
 三浦 哲夫
 田口 立吉
 二宮 茂男
 塩見 佳代

現在、マスコミに真の「時事川柳」はありません。伝統ある時事川柳が方向を失い、路頭に迷う前に、いかなる聖域も持たない、限りなく自由な時事風刺川柳を、本欄で再び募集いたします。奮って自信作をお寄せください。

投稿規定は、メール（件名は「目」と記載）またはハガキ一枚に一句、枚数に制限はありません。締切随時。尾藤三柳責任選、年度賞（時事大賞）の対象になります。投句専用メール senryu-koron@doctor-senryu.com